opusdei.org

## 属人区長の書簡 (2009年8月)

今回の属人区長の書簡はメキシコからです。エチェバリーア司教は8月の聖母の祝日について語り、日常生活において神の母のようにキリストの近くで過ごすよう招きます。

2009/12/08

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに! Asumpta est Maria in coelum, gaudet exercitus angelorum [1] マリアは身体と霊魂ともども天に上げられ、天使の群れは喜び歌う。私たちすべてのキリスト者もまた喜びでいっぱいです。聖母が神の完全性のうちに永遠のいのちを生き、天の栄光のうちに聖三位一体を眺め愛しておられるからです。

8月15日の聖母の被昇天の祭日を間 近にしている今、次のことを思い起 こしてください。この大祝日は、

「私たちの視線を天の高みに向けさせます。この天は、何らかの強線をでも、何らかの産物のでも、芸術的な想像のでも、実際に現存するもでするもなく、実際です。神は天でするです。を自身でするのです。です。です。です。です。そこは超自然的な命の情がなった。です。そこは超自然的な命の情がなった。です。そこは超自然的なかです。そこはおりなった。では、そこはおりない。

な雰囲気に満たされ、真に美しいもの、聖性を眺めることができます。」[2] いつも全てのことにおいて超自然的に振る舞うため、どのように、そしてどれほどの頻度で聖母により頼んでいるでしょうか。観想者としての心が深まるように聖母にお願いしているでしょうか。

引用したばかりのベネディクト十六 世の言葉は、信仰の神秘を改めて味 わうために役立つ導入になります。 聖ホセマリアが記したように、「こ れこそ愛の奥義です。人間の理性の 到底理解できない真理なのです。三 位一体の神の愛と悦びが集中するほ どの対象となる、これほどの尊厳を 受けるところまでひとりの人間が高 められたわけを明らかにするのは、 信仰以外にはないでしょう。これは 神の神秘なのです。しかし、聖母に 関する神秘ですから、信仰の他の真 理よりは理解しやすいような気がし ます。」[3]信仰の真理に深く入り

込み、聖マリアをもっと愛し、もっと称えるための主の照らしを私たちに取り次いでくださるように、神を直接見ている創立者のパドレと、イエス・キリストの聖なる人性、聖母、天使、諸聖人に願い求めましょう。

まず勧めたいことは、聖母が日々ど のように応えられたかを深く考え、 聖書の聖母に関する記述を、自分の 念祷の中でじっくり黙想することで す。僅か数節に過ぎないとしても、 そこには、聖霊が神の御母・私たち の母に関して啓示しようと望まれた magnalia偉大なことが含まれていま す。それは限りなく豊かで、常に教 会の教導権に従いつつ、私たち一人 ひとりが読み解いて行くべきもので す。また、マリア論を復習すること も勧めます。そして、黙想を伴う深 読を通して、「その御名は尊く、力 あるある方 | [4]が聖母において成し 遂げられた筆舌に尽くしがたい事柄

を探求するように努めて下さい。聖 霊に促されてマリアの心からほとは しり出たマグニフィカトの賛歌は、 私たちが御母を知り、御母と付めの い、おきして御母を見ならます。 も良い方法を教えての姿をます。 も良いマリアがどんな に、私たちはマリアがどんな るかを知ることができます。」[5]

告げのお祈りやロザリオを唱えると きに、自分の居場所を見つける努力 をしましょう。聖母は、神との対話 を欠かさず続けておられたことで しょうし、それは、大天使が神の メッセージを伝えたときもそうだっ たでしょう。同じことは光の第二の 神秘にも表されています。カナの婚 宴における聖母の信頼に満ちた願い によって、イエスはある意味で「ご 自分のとき | を前倒しにされ、最初 の奇跡を行われました。その結果、 御子の最初の弟子たちが信仰の恵み を頂くことになったのです。福音書 は言葉少なにそれを記しています。 「弟子たちはイエスを信じた。| [7]

この話は、まさに主が愛しておられた弟子である聖ヨハネによって伝えられています。その時までナザレでの御子の隠れた生活の世話をしておられた聖母が、贖いの秘義に直接協力し続けるよう招かれてたことを示しています。この神のご計画は聖母

の頼みに対するキリストの答にほの めかされています。「婦人よ、私と どんな関わりがあるのです。私のと きはまだ来ていません。| [8] 主は 十字架の生け贄のことに言及してお られたのです。ご受難のときに、超 自然的にも人間的にも当然なことし て、御母が新たなエバとして主の側 にいることを望まれました。それ は、人々の生活を超自然的に立て直 すことに協力してもらうためです。 聖ヨハネはこのことに関しても記し ています。「イエスの十字架の側に は、その母と母の姉妹、クロパの妻 マリアとマグダラのマリアが立って いた。イエスは、母とそのそばにい る愛する弟子を見て、母に『婦人 よ、ご覧なさい。あなたの子です』 と言われた。それから弟子に言われ た。『見なさい、あなたの母で す。』そのときから、その弟子はイ エスの母を自分の家に引き取っ た。| [9]

教皇様の言葉によって思い起こして もらったように、被昇天の祭日は私 たちが目指している最終的な住みか である天国に目を向けるよう招きま すが、もう一つの聖母の教えも忘れ てはなりません。聖母は体と霊魂を もって栄光に入られる前に、贖い主 キリストのご受難とご死去に付き添 われたという点です。「新しいエバ は、苦しみにおいても受難において も、新しいアダムに付き従いました が、それは永遠の喜びにも続きまし た。キリストは最初の方ですが、復 活された御体は地上の御母のそれと 切り離せない関係にあります。マリ ア、そして聖母において全人類は神 に向かう被昇天の中に含まれてお り、聖母と共に全被造界がありま す。 (…) こうして、新しい天と地 が生まれ、そこには悲しみも嘆きも なく、もはや死もないでしょう(黙 示録21,1-4参照)。|[10]

聖母は、十字架のいけにえにまたと ない仕方で協力されました。それゆ え教会は「弁護者、扶助者、救援 者、仲介者の称号をもって|敬愛し ます。しかし、このことは「唯一の 仲介者であるキリストの尊厳と効力 から何ものも取り去らず、また何も のも付加する」[11]ものではありま せん。ヨハネ・パウロ二世が最後の 回勅で与えられた、「聖体に生かさ れた女性 という称号も、贖いのみ わざへのこの緊密な協力に由来しま す。聖体とは、カルワリオで実現さ れたことがミサ聖祭において再現さ れるゆえに、十字架のいけにえの秘 跡的現在化です。そして、ゴルゴタ において主が新たな母性を聖母に示 されたことと切り離して考えるわけ にはいきません。ヨハネ・パウロニ 世が指摘されました。「イエスのみ 言葉は、救霊の使命に照らすことに よって、その正確な意味が分かりま す。贖いのいけにえのときにお与え になった言葉ですから、高い価値が

あります。事実、福音記者は、御母インでは、ないまでは、でのことが今や成しり。 エスは、すべてのことが今や成り。 エスは、のを知り。(ヨハネ19,28)と意味深く記しています。それにはないはないはないはない。 たかれたの母を記してが成就たとのでいる。 たかれたのでよいないでいるの人類のために、聖母は救いでいる母となられたのであります。 しておける母となられたのでいるかで、している母となられたのであります。 は、1[12]

ミサ聖祭のたびに聖母は、十字架のいけにえの無血の再現場所であるの壇の傍らに、神秘的に現存されるのです。創立者は書かれました。(本神秘のうちに、る神のの計り知れない。(なる神のであるとができます。)であることができます。(13)であることができます。(13)では、2世聖祭のよい準備のため典礼が司

聖母を〈自分の家に〉迎え入れたのです。

子供たちよ、聖母のすべては神から のものです。聖体に生かされた女 性、祈りの師である方は、私たちが 彼女と交わり、全心全霊を傾けてイ エス・キリストを愛することを教え てくださいと願うことを待っておら れます。それはどんなときでも、ど んな状況にあっても全面的な忠実さ で主に応えるためです。聖母の被昇 天の祭日は、愛の偉大な神秘を私た ちに示してくれます。「キリストは その愛による全能の力で死を打ち砕 きました。愛のみが全能です。この 愛に促されてキリストは私たちのた めに死去され、死にうち勝ちまし た。実に、愛によってのみ、いのち の王国に入ることができるのです。 そして、マリアは御子の後にお入り になりました。御子のご受難に同伴 された後、その栄光に与っておられ ます。聖母は真っ先に大いなる喜び のうちに天にお入りになって、私たちのために道を開いてくださいました。ですから、今私たちは聖母に〈天の門〉、〈天使の元后〉、〈罪人の拠り所〉と呼びかけるのです。」[15]

連祷やその他のマリア様への祈りを 信心深く唱えましょう。聖母マリア への祈りやサルベ、ロザリオや子と しての愛から生まれる射祷などに、 孝愛と信心を込めましょう。「汚れ なきおとめマリアはエバの罪を償い ました。そして、無原罪の御足で、 地獄の蛇の頭を踏み砕いた| [16]か らです。聖母を心からの熱意を込め て愛した創立者に一致して、神のみ わざに感嘆しましょう。「御父と御 子と聖霊は、マリアを宇宙の女王と し、冠をお与えになります。天使た ちは臣下の礼を尽くします。太祖と 預言者と使徒も…。殉教者と証聖 者、聖なるおとめと諸聖人も。そし て罪人も一人残らず。そしてあなた

と私も。」<u>[17]</u> 私たちもこのように 振る舞っているでしょうか。

聖ホセマリアは、手紙や家族の書類のサインにはMarianoを使うのが常でした。ですから、〈Marianoの学舎〉に入り、創立者に倣って、小さな子供のようにいつでも母親の手が必要なことを自覚して、聖母への信心を深めましょう。

さらに聖マリアは、創立当初かららに聖マリアは、創立当初からられてオプス・デイを見下のマンス・デイはそのマンス・デイはそのの家に、なりました。私たちの個人し、はまなの時にはある。8月にはませるともないです。8月にはよりまでかを記念しまするともでかを記念しまするようにロレトで初めて行われました。〈栄光の座〉であるすがるよりすがるよりすがるよりすがるよりないないでは、1951年8月15日に「中の御憐れみによりすがるよりないないでは、1951年8月15日に「神の御憐れみによりすがるようない。

勧められたのも1971年8月23日でした。…このように天地の元后の執り成しを受けたことは数限りなく、今では数え上げることができないほどです。

今、私はメキシコにいます。メキシ コ・シティーに建立された聖ホセマリ ア教会の献堂式に参列するために やってきたのです。一人ひとりと共 に神に感謝しています。というの も、この機会に、思い出深い1970年 の創立者の足跡を辿り、グアダルー ペの聖母の前で祈ることができたか らです。当時創立者が秘めておられ た意向の幾つかは今に引き継がれて いますが、他のものは、聖母の御取 り次ぎによってすでに成就されまし た。繰り返しますが、私は、今オプ ス・デイにいる人たち、これから やってくる人たち、全員の名前で、 聖母のみ前にひざまずきました。そ れは教会のため、教皇とその協力 者、特に今年は司祭年ですから世界

中の司教と司祭たち、オプス・デイ と全キリスト者のために祈るためで す。また私たち一人ひとりの毎日 が、イエス・キリストへの愛で満ち 満ちているよう願うためでもありま す。1970年8月、主が創立者の心に 言葉を刻みつけられたときのことを 鮮明に覚えています。いたく心動か された創立者は、見るからに心動か されている様子で直ぐにそのことを 話されました。辛抱強く〈祈る人〉 として振る舞うように急き立てられ たと私たちには見えました。clama, ne cesses! [18] 叫べ、黙すな、とい うその一句を、私たちの信心や仕事 に組み入れることができるよう願っ ています。

8月15日、聖母の汚れなき御心への 奉献を更新するときには特に、私の 願いに付き添ってください。そし て、次のような聖ホセマリアの勧め を徹底的に見直すことにしましょ う。「Adeamus cum fiducia ad thronum gloriae, ut misrricordiam consequamur (ヘブライ4,16 参照) 憐れみを受けるために、信頼をもって栄光の座に近づこう。今こともいるとでですがおいるとをしているとですがお言葉に基づいて、私しいながとりの内的生活を深めましているとき、心の奥底で音もなくそれを聞くことがあるでしょう。

活動、つまり気晴らしや面白い話やスポーツに興じるときなど、一言で言うと、皆さんの全生活に、愛情のこもった言葉が欠けることのないように。すべてを、超自然的な土台に置き、神との親密な交わりのうちに、実行しなさい。」[19]

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

†ハビエル

メキシコ、2009年8月1日

- [1] ローマミサ典書、聖母被昇天の 祭日、アレルヤ唱
- [2] ベネディクト十六世、2008年8月 15日聖母の被昇天の祭日の説教
- [3] 聖ホセマリア、『知識の香』171
- [4] ルカ 1,49.

- [5] ベネディクト十六世、2005年8月 15聖母の被昇天の祭日の説教
- [6] 聖ホセマリア、『聖なるロザリオ』喜びの第一の神秘
- [7] ヨハネ 2,11.
- [8] 同上 2,4.
- [9] 同上 9,25-27.
- [10] ベネディクト十六世、2008年8 月15聖母の被昇天の祭日の説教
- [11] 第二バチカン公会議『教会憲章』11
- [12] ヨハネ・パウロ二世、1997年4 月29日一般謁見講話
- [13] 聖ホセマリア、1976年サラゴ サ、"Libros de Aragon"の記事『ピ ラールの聖母』

[14] ローマミサ典書、ミサ聖祭の準備の祈り

[15] ベネディクト十六世、2008年8 月15聖母の被昇天の祭日の説教

[16] 聖ホセマリア、『聖なるロザリオ』栄えの第五の神秘

[17] 同上

[18] イザヤ 58,1.

[19] 聖ホセマリア、1971年9月9日団 欒のメモ

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2009nian-8yue/ (2025/12/10)